

まつりの準備

四万十市の文化施設の仕事が3年目。1～2年目で土地のことを知り一緒に協働させていただく機会もあり、今年度は大きな企画を打てることになった。2026年の夏からワークショップやリサーチを半年ほど重ね、うたや曲、楽器や舞台美術などをつくり2027年3月に参加型コンサートに向かうプロジェクトで、昨年秋からこの夏にかけ、その支度に明け暮れるシーズンを過ごしている。プロジェクトのメインディレクターは九州時代からお世話になっている作曲家の野村誠さん。7月下旬のキックオフに向け出会いが高まっていた7月を振り返り覚書や紹介も兼ねコラムにしてみる。

◆0610,0630-0701 高知大学教育学部

高知市はインドネシアのスラバヤと姉妹都市であり、友好の証に贈られたガムランがひとそろいある。野村さんはガムラン作品も作曲されていて、打合せしていた際に作曲家の宮内康乃さんと高知県立美術館とのガムラン企画のことを思い出され、コラボができないかな？とあたってみることに。聞くとこの春楽器がちょうど高知大学に集結した良いタイミングで、6月～7月何度か講座やワークショップに訪れることができた。大阪を拠点に活動されている作曲家の中川眞さんもいらしてお話を伺う。無茶振りでゴングを担当することになったり。学部生さんや院生さんとの交流も叶った。7月末に野村さんと研究室を訪ね、協働の相談をする。

◆0707 南部さんとの再会

昨年度の仕事で、高知市文化振興事業団との連携で「文化施設のアクセシビリティ」として、障害者が劇場によりアクセス（情報にたどり着く・チケットを買う・来館する・鑑賞する・参加する・創造するなど）しやすくなるには何が必要かを学ぶ講座を企画した。その後編でおいでいただいた障害者も参加できる舞台芸術の企画制作を手がけている南部充央さんが、7月高知県立文化施設協議会の研修にお越しになるということで、復習と会館での成果も報告したくて参加することにした。南部さんは、「自分にもできそう」という感覚を発生させる天才だ。今回も宿題をもらったようにも思うし、勇気が得られたようなこともあった。南部さんとの縁も深い高知市のアールブリュット美術館・藁工ミュージアムも、鑑賞サポートで四万十でのプロジェクトに関わる予定。

◆0711-0712 中村交響楽団の定期演奏会

四万十市は南北にエリアがわかれていて、南部に中村というまちがあり、そこが市街地である。戦後翌年から発足されたまちオケ中村交響楽団という楽団があり、今年が創立80周年の記念的な年でコンサートも多い。わたしも扎扎实り所属していて、7月は定期演奏会としてドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」ほか、「ホルン

のメンバーが充実しているので」と前プロになんとホルンアンサンブルを組んでくださり、コンサートのオープニングとして七重奏を演奏させていただいた。久しぶりに猛練習したこと、中響さんの裏方や運営・準備が本当に心配りに満ちていたこと、お客様があたたかく本当に幸せな公演だったことなどまちの気配を嗅ぎ取っていた印象的な期間だった。この豊かでたくましい方々にもたくさん相談をしてみたい。

◆0718-19 下田の太鼓台

下田は四万十川の河口にあたるまち。江戸時代に大阪から伝わり続く「太鼓台」という文化があり、男たちが1トンの太鼓台をかついで昼から夜にかけまちをねりあるく。準備の日は集会所にて「しぼり」と呼ばれる靱殻がつまったカラフルなぬいぐるみの布を組み上げていく。複雑な組み方だなあと思ってみているとせっかくまとまったところで「向きが違うやいか」と何度もほどいてやりなおしする。人がゆるく出入りして、なかなか進まないように思われる。もっと観察していると、年代別になんとか役割分担があるのがわかる。考古学者の川村さんはもう10年以上彼らをみていて「なんとなく世代交代があるねん」と話す。当日になるともっとたくさん人が登場し、さらに役割分担がわかりやすくなった。休憩のたび大人が離れると子どもがぱーっと集まってきてかわるがわる太鼓を鳴らす。海が近づいてすっかり大きくなった四万十川と三日月をあおいで暮れる夜、ローソクの火にこだわった提灯が次第に濃くなる太鼓台は本当にきれいだ。このひとたちとも何か協働のご相談が叶うかしら、とすこし遠くから見守るわたくし。

◆0728-30 しまんと子どもオーケストラプロジェクト

いよいよ7月末からキックオフとなった。今回のワークショップはボイスパフォーマーの中ムラサトコさんによる子どもを対象とした音と紙を使う活動。とにかく思い切り自由にあそびまくれる内容で、子どもたちは夢中の様子。初日のワークショップを終えた束の間、地震が起き、熊本で大地震の報せ。震災と隣り合わせである太平洋側の土地・高知の未来が共鳴する。心配な気持ちも抱えつつ中日、野村さん、サトコさんに加え、美術家 KOSUGE1-16 の土谷亨さんと一緒に西土佐エリアの牛鬼や五ツ鹿踊り、藤ノ川神楽、中村エリアの一条神社や太鼓台のリサーチ。翌日の乳幼児対象の活動後、アーティストたちの巻き起こす風へのり、打ち合せを経て企画が自由かつ着実にプランになりつつある。複数のスケジュール固定・サトコさんのモットーである「誠実でデタラメで楽しげ」をこのプロジェクトでもぜひやろう！という約束のもと、祭りの準備は次の一步を踏み出した。

